

2018 J2 順位表 第 41 節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	松本	76p +20	54	34	HO	A△
2	大分	75p +25	75	50	A●	H●
3	町田	75p +18	61	43	H●	A●
4	横浜FC	73p +18	62	44	H●	A●
5	東京V	70p +15	55	40	A△	H△
6	福岡	69p +16	58	42	A●	
7	大宮	68p +16	64	48	AO	H●
8	甲府	59p +11	56	45	H●	AO
9	山口	58p -3	61	64	H△	A●
10	水戸	57p +4	47	43	HO	A△
11	徳島	55p +6	48	42	H△	A●
12	山形	55p -2	48	50	A●	H●
13	千葉	54p 0	72	72	AO	HO
14	岡山	53p -3	39	42	A△	HO
15	新潟	53p -6	48	54	HO	A●
16	金沢	52p +2	49	47	H●	A●
17	栃木	49p -10	38	48	H△	A●
18	愛媛	48p -15	34	49	AO	H●
19	岐阜	41p -18	44	62	---	---
20	京都	40p -20	38	58	A●	H●
21	熊本	31p -32	47	79	AO	H●
22	讃岐	31p -42	28	70	AO	H●

today's guest : **アビスパ福岡**

2017 J2 21勝11分10敗 勝ち点74: 4位

直近の対決と結果

2018/02/25
J2-1節@レベスタ

福岡 2-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		アビスパ福岡	
2018/11/11 J2-41節@Kスタ	水戸 1-1 岐阜	2018/11/11 J2-41節@レベスタ	福岡 1-0 熊本
2018/11/04 J2-40節@長良川	岐阜 0-1 山形	2018/11/04 J2-40節@町田	町田 2-1 福岡
2018/10/28 J2-39節@長良川	岐阜 2-0 千葉	2018/10/28 J2-39節@レベスタ	福岡 2-2 金沢

●11/4 (日) 第 40 節・ホーム山形戦。残り 3 試合で 21 位・讃岐との勝ち点差 9 の FC 岐阜は、この試合で勝利して J2 残留を決めたいところだったが、相手の攻撃を受ける時間帯が続く。粘り強く守っていたが、PAへのクロスボールを狙った相手選手に飛び込まれ、その処理を誤ってオウンゴールを献上してしまい、結局それが決勝点となって 0-1 で敗戦。しかし讃岐も負けたため、岐阜の J2 残留が確定した。続く 11/11 (日) 第 41 節・アウェイ水戸戦では、前半は岐阜が試合のペースを掴んだが、ミドルシュートのこぼれ球を押し込まれて先制点を奪われる。後半は水戸に試合のペースを握られるが、#10 ライアン・デ・フリースがショートカウンターで中央突破して同点弾を決めると、その後は一進一退の攻防が続く、1-1 でのドロー。アウェイで勝ち点 1 を持ち帰った。勝ち点で岐阜と並び得失点差で 19 位につけていた京都が 2 連敗したため、岐阜は順位をひとつ上げて 19 位に。そして、全 42 節の 2018 年 J2 シーズンも残り 1 試合。最終節を迎えても、今季の J2 は優勝チームも降格チームも決まっていなかった。そしてライセンスの関係で、町田の順位次第で J1 からの降格チーム数も、J3 の 2 位次第で J3 への降格チーム数も変わるという、まさに混沌とした様相を示している。残念ながら FC 岐阜は、19 位または 20 位という最終結果が確定しているが、来季へ繋げる結果とするためにも、最終節には勝利を、そして勝ち点をひとつでも多く積み上げたい。

今シーズン最後の対戦相手は、アビスパ福岡だ。「アジアの壁」井原正巳監督体制 4 年目の今季は、現在 6 位とプレーオフ圏内にいる。残り 1 試合で自動昇格圏・2 位に入るのは無理だが、順位がひとつでも上がればプレーオフは有利となるし、7 位・大宮との勝ち点差は 1、今節の結果次第ではプレーオフ圏外となる可能性もある状況だ。この最終節に懸ける気持ちは相当に高いだろう。これまでの両チームの通算対戦成績は、岐阜の 3 勝 3 分 13 敗・15 得点 29 失点。ホーム戦でも 0 勝 1 分 8 敗・4 得点 19 失点と、福岡が圧倒的に優位だ。しかも今季 41 試合すべてにスタメン出場していた #31 宮本航汰が、累積警告で今節は出場停止。岐阜にとってはかなり厳しいデータが揃ってしまっているが、岐阜の選手たちの、最後の奮闘に期待したい。

福岡の攻撃陣は、10 得点の #18 ドゥドゥを筆頭に、8 得点の #16 石津大介、6 得点の #10 城後寿、#17 松田力、#15 森本貴幸と、どこからでも得点を取れる選手たちが揃っている。そして、今季福岡に途中加入して 4 得点の #35 レオミネイロ…2015 年から FC 岐阜に 2 シーズン在籍し、2015 年は 8 ゴール、2016 年は 13 ゴールを挙げた選手。2016 シーズン第 38 節・北九州に敗れて最下位となった際、キャプテンマークを巻いてサポーターの前に独り残り、「まだ (J2 残留を) 諦めていないから最後まで応援してほしい」と呼びかけ、その後 4 試合で 4 ゴール・ホーム 3 連勝で J2 残留を決めてシーズン MVP に輝いた功労者で、クラブの危機を救った「救世主」と呼ばれる選手の 1 人。その彼が、対戦相手として長良川に帰ってくる。また、2009 年～2010 年に岐阜の守備を支えた #29 吉本一謙もベンチ入りする公算が高い。かつて岐阜にいた選手の姿を再び見られることは嬉しいものだが、しかしこの試合で活躍させる訳にはいかない。逆に、現在の岐阜の選手たちが活躍する姿を見せてくれるはずだ。

全 42 試合、長かったはずの 2018 年 J2 リーグも、今季もまた、振り返ってみるとあっという間だったかのように最終戦を迎える。残念ながら今季も不本意な成績ではあるが、やはりホーム最終節は勝利で、そして笑顔で終わりたい。そして、このチームを見ることができるとは、この残り 1 試合・90 分間だけだ。だから今節も、最後まで勝利を信じて戦う選手たちの背中を後押しをする、拍手と声援を送り続けよう。そして来季の FC 岐阜の躍進を信じて、このホーム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場に集まろう。(ささたく)

今年もご愛読
ありがとうございました。
また来季、長良川で
お会いしましょう。

大酒場 ホームラン
名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後 3 時から営業
TEL.058-263-5201

Living in Woods
本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

湯麺 戸塚
店主：戸塚 哲也
瑞穂市穂積 1596-4
11:30~14:00/18:00~21:00(L.O.20:50)
お休み情報 twitter: @Tanmen_Tozuka
☆☆☆各務原店もよろしく!!☆☆☆

「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は JR 岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩 3 分。休：月曜日

投稿募集 !!
gidaidohri@gmail.com

【第40節】岐阜0-1山形

●前々日の天気予報では快晴のハズだったのに、あいにくの雨模様。だから雨対策をして来なかったんだろう、屋根の下で応援する山形サポたち（苦笑）。とはいえ、僕らも2015年の途中まではバックスタンドで応援してたんだから、あまり人のことは言えない（笑）。それに少人数だと屋根の反響を利用して声を届けるのは有効なのよね……。

さて、既に山形はプレーオフ進出もJ3降格もない順位・勝ち点のチーム。そして、先日の天皇杯4回戦でJ1首位の川崎を3-2で下し、来たるべき準決勝では（知り合いの山形サポ曰く）“名前も呼びたくないあのチーム”（苦笑）との“みちのくダービー”を控えていて、そちらに重心がシフトしているであろうチーム。今の山形が一番嫌なのは怪我やコンディションを崩すこと。だからそんなに激しくは来ないだろう、だったら勝機はあるはず……僕はそう思っていた。

事実、山形は守備ブロックをがっちり固めてカウンター狙いで、激しいチェックや無理な仕掛けは少し避けているように見えた。負けるつもりはないけれど、まるで強敵を想定した守備練習をするような。そして、そういった山形の構えに、岐阜の選手たちが良くも悪くも付き合ってしまった印象が。そりゃ岐阜の戦術では激しくゴリゴリとは行かないけど、勝つためには、もっと積極的に走り回り、仕掛けなくてはチャンスは生まれないのに。雨で気持ちも身体も冷えてしまったのか、ここ数試合で見せていたような精力的な動きが影を潜めてしまったかのようだ。まあ、それならそれで90分間経過した後に勝ち点1を手に入れることができれば“自力での”J2残留が決まる（笑）のだけれど、山形の木山監督が交替で投入した選手たちが、まあ空気を読まないというか（苦笑）、徐々に勝利を目指す方向にシフトしていった。考えてみりゃ山形もリーグ戦8試合未勝利、やっぱり勝ちに飢えていたんだろう。それを跳ね返さずに受けてしまったのは、ゴールエリア内での交錯プレーでミスも出てしまう。手堅い守備はできていただけに、もったいない。一方の攻撃は……シュート5本枠内ゼロだったから、良いとこあったかしら（溜息）。0-1で山形に敗れたものの、讃岐も栃木に負けたため、J2残留を手にした。僕なんかは平然と『他力本願上等』を掲げてるし、そして実際も何度も“他力”に助けられている（苦笑）ので、ある意味、非常に“岐阜らしい”残留の仕方だと感じたけれど……だけど、勝ち点40は、間違いなく“自力”で積み上げたモノだし、J2残留するのとしらないのとでは大きな違いだ。来季もJ2でやれる。でも、まずは今季の残り試合を勝つこと。そこに集中したい。（ささたく）

●予報通り、正午あたりから降り始めた雨は、キックオフ前から前半途中までがピークだったか。それもまた、予報通り。天気予報、素晴らしい。ピッチ内練習まではメインで雨やどり。どこで観戦するか、自分なりのギリギリまで悩んだが、やっぱり定位置へ行ってしまった。しかし、そんな天気でも入場者数は六千超え。隔世の感があるよなあ。

ただし、試合は？といえ、そんなモノ好き……もとい、観客の望んだ内容……いや、結果にはならなかった。それでも、「負けても残留決まったよ。」というのは、らしいっちゃあ、らしいのかな？『内容』という言葉を選んだのは、ラッキーもあったとはいえ、無失点で粘った前半と、ゴールを割ることは出来なかったが、それなりに盛り上げてくれた後半を評価してのこと。そんなドロー上等の展開。勝ち点1でも自力残留には違いない！そう胸を張りたかったところだったが、そうは問屋が卸さなかったようで。OWN・ゴールかあ。ビクトルが止められなかったんならしょうがないな。でも、なんか、今季はたくさん出場してたような気がするよ？オ・ウングル選手が。こんなに自らのゴールに入れといて、それでも残留するなんて、ある意味スゴいよねえ、と感心。ハンパないワ、ウチの残留力。

しかし、シーズン前半は昇格争い圏内。そこから、じわじわ

と貯金を食いつぶす（実際は、勝ち点が減るわけじゃないんで、表現が妥当かはわかんない）なんて状況は初体験。正直、ビビってました。いい経験が積めましたよ、とでも言うておこうか。それにしても、これで山形には今季3戦全敗。昨季から4連敗だ。天皇杯はPK負けだから、公式記録は引き分けなんだけどね。素直に引き分けとは思えない。

来季こそは、熨斗をつけてお返したい。そして、できれば、同じ月に2回も当たるのはカンベンしてもらいたいもんですね（苦笑）。（ぐん）

●冷静に言うと「凡戦」だったと思う。けれど、前からプレスをかけずにアリジゴクのように岐阜の攻勢を待ち構える山形に対して、無理に仕掛けることなく様子を伺う岐阜。それは、「たとえ残り3試合を3連敗して讃岐が3連勝しても、得失点差23のアドバンテージをなるべく確保して残留圏に逃げ込む」という、一種の『保険』をかけたスタイルに見えた。相手が仕掛けてこなければ、こちらもし掛けない。これで、大きくはスコアが動かない。結果的に0-1で敗れたけれど、残留争いのライバル・讃岐は得点力のあるチームではないので、ロースコアの敗戦はさらに残留を近づけるものになった。実際は、讃岐も敗れて残留が確定するのだが。

ぼくは大いに納得出来る“塩辛い試合運び”だったんだけど、「スペクタクルな大木サッカーって大好き！」な皆さんには、どうだっただろう。（吉田铸造）

【第41節】水戸1-1岐阜

●前の試合で負けたけれどJ2残留を決めた岐阜。ホーム最終戦、クラブ史上最高順位・勝ち点を目指して戦う水戸。圧倒的アウェイゲーム。しかも念願のJ1ライセンスを（条件付きらしいけれど）手にして、コレオで“WE HOPE J1”とかやっちゃうんだから、今後の水戸は変わるかも……。

さて、陣地の交替を選んだ水戸。あまりホームチームがそういう選択をするのを見たことがないけれど、前半に眩しい太陽を背にして攻めることで、より攻撃のチャンスを増やす意図が、勝利への執念を明確に感じられた。そして実際、眩しくてボールが見えにくいのか身体が重いのか、岐阜の選手は反応が悪く、なかなかセカンドボールが拾えない。そしてミドルシュートを撃たれ、#25ビクトルも逆光でボールを前に弾いてしまったところを#9ジェフェルソン・バイアーノに泥臭く押し込まれてしまう。#25ビクトルは#3竹田と交錯してしまったのも不運だった……ところで、今回はコーナフラッグを抜いて銃の如く構える、例のゴールパフォーマンスを見せなかったのは何故なのかな？これ以上は抜くの禁止とでもJリーグに言われたのかしら？（苦笑）

その後も試合は水戸のペース。岐阜も攻撃するが、カウンターで逆襲される場面が目立つ。なかなかチャンスを掴みずにはいたけれど、水戸がミスして前線で待っていた#10ライザにボールが渡ると、そこから#14風間を囮にしつつ一気にドリブルで中央突破を仕掛け、PA外からコースを狙い定めて、鋭く右足を振り抜き同点ゴール！DAZNのJ2週間ベスト5ゴールにも選ばれるゴラッソ！その後はペースを取り戻して一進一退の攻防。#2阿部ちゃんのダイレクトボレーは決まると思ったんだけどなあ……両チームに決定機が生まれたけれど、決めきれずにドロー。アウェイで勝ち点1を持ち帰ってきたことは評価したい。けれど、疲労が溜まっているのか、反応が鈍く攻撃が繋がらない場面も散見された。ホームで迎える最終節は、もっとひたむきに、もっとチャレンジするサッカーでスタジアムを、そして僕らを沸かせてくれ！（ささたく）

●いよいよ、今季ラストのアウェイ・ゲーム。深夜に岐阜を出発し、順調に走って、水戸に到着したのは朝7時。スタジアムの駐車場が開くまで2時間半を調整していたのだが、いざ、スタジアムに行ってみると水戸サポの出足が早い。ホーム最終戦に集まった観客は7千人超え。クラブ創設25年、J2初年度からの古強者がクラブ史上最高の順位を達成しよう

という、その瞬間を楽しみにしているサポが多いのか。実際のところ、水戸駅を始め、JRのどの駅から距離があるため、集客には苦労してるんだろうと思っていたが、この日の動員、メインやバックの埋まり方を目の当たりにして、少なからず感動を覚えたことを告白しておく。

そんな「クラブ史上の最高順位でフィニッシュ！」というモチベーションがあるせいか、キックオフ直後から水戸ペース。というより、現在の順位通りの展開と書いた方がいいのかもしれない。前半に1点を許したほか、何回かヒヤリとする場面も訪れたが、ピクトルを中心に守備陣が懸命にこらえて追加点を許さず前半終了。そうするうちに水戸に焦りが出たのか、わずかなほころびを衝いてのシュート・カウンター炸裂。ライザが落ち着いて流し込み同点。アベちゃんのあわやのボレーもあったが、そのままドローでの決着となった。アベちゃんのが決まったら、今季のベスト・ゴールになっていたやもしれん。惜しかった。

この勝ち点で順位を一つ上げて19位で最終節を迎えることとなった。前日、京都が負けて、得失点差でこの順位とまではいたけど、自ら勝ち点を挙げてコレを確定できたのはよかった。残念ながら、最終節に勝っても19位にしかねない。しかし、一つでも上の順位を目指すのは当然のこと。ラストの相手は昇格を狙う福岡。過去にも、最終節の長良川や昇格のかかった試合で対戦したことはあるけれど、今回も氣勢を上げて乗り込んでくるだろう。そういう相手にこそ勝ちたい。開幕戦の借りも返したい。そういや、福岡には勝ったのはいつのことだっけ？ととにかく、最終節を選手、スタッフ、そしてスタジアムが一体となって、勝利を勝ち取ろう！バンザイ四唱をやりたい。みんなの笑顔で今季を締めくくりましょう！（ぐん、）

【ユース】東海プリンスも大詰め

●我がFC岐阜ユースU-18（以下「FC岐阜ユース」）は、今年東海プリンスリーグに参戦しています。現在高校サッカー選手権やJユースカップの開催の為の中断期間に入っており、それらが終了してからリーグ戦は再開されます。現在第15節まで終了しており、残りは3試合。FC岐阜ユースは第15節終了時点で2勝0分13敗の勝点6で、10チーム中9位となっています。東西のプレミアリーグからの降格チームの有無、逆に東海プリンスリーグからプレミアリーグへの昇格チームの有無によりプリンスリーグでの残留可能順位は変わってきますので、一概には言えませんが、とにかく今出来るのは絶対に10位に落ちない事と可能であれば8位になる事。勝点差7の8位藤枝明誠高校の上に行くには3連勝かつ藤枝明誠高校が3連敗するのが必要となります（FC岐阜ユースは得失点差が大きくマイナスしているので勝点が並ぶだけでは多分駄目です）。

今後の試合予定としては11月24日（土）の第16節で8位の藤枝明誠高校との直接対決が長良川球技メドウにて！そして、12月1日（土）に第17節清水桜が丘高校戦が静岡県清水にて、12月8日（土）に浜松開誠館高校戦が笠松町の岐阜県フットボールセンターにて予定されています。少しでも残留の可能性が大きくなるように、そして来年に繋がるように頑張ってください。

頑張れよ、応援しているからな！FORZA！FC岐阜ユース！！

※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ずJFAやチームの公式サイトで確認して下さい。（シュナ）

【ホーム最終戦恒例】 今季のベストゲーム・ベストゴール・MVPは？

◆ベストゲーム

第13節 ホーム 松本戦

やはり、ホームゲームから選ぶべきですから…今季ホーム初勝利そして今季初の完封勝利を挙げた、5/6（日）の松本戦（2-0）を選びます。厳しい試合でしたが、#11古橋が松本CBからボールを奪って先制点、アディショナルタイムにカウンターで#24難波がトドメの追加点を決め、現在首位の松本を無失点に抑えての勝利。今年の“意趣返し”も反町監督にできて（笑）、スタジアムが歓喜に沸きました。でも、できたら、この最終節こそがベストゲームだと言いたいです！（ささたく）

第15節 アウェイ 大宮戦

笑ってしまうような完勝だった。前線からのプレスが面白いようにはまりほとんどピンチらしいピンチもなく、攻めてはライザのおしゃれヒールから亨梧が先制、そしてFKから竹田のヘディングゴール。かつて自らが所属した所沢の新座陣屋キッカーズの後輩小学生たちが見守るゴール裏スタンドへゴールを決めた竹田は、さぞかし快感だったろうねえ。3年前に5失点の惨敗で悔し涙を流させられたナックファイブで、今年は気持ちよくアイダを啜ることができた。（cruyff）
ベストゴールに挙げた岡山戦、甲府からの初勝利を大逆転で成し遂げたアウェイ甲府戦も捨てがたい。でも、内容、結果込みで今季一番のカンペキな試合ということでこの試合に一票を投じます。だいたい、ウチの歴史において試合後の相手選手から「こんな順位にいるクラブではない。」とまで言わしめたことがあっただろうか？

先制点を演出したライザのヒールからのキョーゴのシュート。後半開始早々のFKからの竹田のヘッド。トイメンの相手DFを股抜きで転がしたキョーゴのドリブル突破まで、全く文句のない完勝。この試合を置いて、ベストは他にない！と断言したい。ただ、毎年書いてますが、ゴールもゲームも今日の最終節が一番であることを心から期待しています！（ぐん、）

第17節 ホーム 水戸戦

完勝でした。岐阜が、こんなにも完璧に「ここから（攻撃に）行こう」と決めて、それがキチンとカタチになった試合をぼくは知らない。うわあ、ウチってこんなに強かったんだ……と思ってしまった（のちに圧倒的な勘違いだとわかるのだが）。この時期が今季のピークだったと思う。（吉田铸造）

◆ベストゴール

No.7 田中パウロ淳一 23節（7/15）アウェイ甲府戦

古橋の「シュートか？」と思うばかりの速いクロスに飛び出してピットンコで合わせたパウロ。2人は電脳通信でもしていたのか？と疑ってしまうタイミング。個人的には文句なしです。（吉田铸造）

No.10 ライアン・デ・フリース 39節（10/28）ホーム千葉戦

宏矢からの縦パスを受けたパウロが、横から近付いてきた航汰にダイレクトでスイッチ。このパス交換2本で千葉のディフェンダー4枚を引き寄せて、抜け出した航太が右へボールを流すとそこにはどフリーのライザ。あとはインサイドキックで丁寧にゴールに流し込むだけ。パスで崩し切る大木サッカーの面目躍如というゴールだった。（cruyff）

No.18 石川大地 37 節 (10/13) ホーム岡山戦

もっと上手いシュート、美しいゴールもあったはずなんです。だけど、13 戦末勝利でチームの頭上に立ち籠めていた暗雲を払いのけ、僕らが最も“熱狂した”という点において、10/13 の石川大地の決勝弾を選びます。(ささたく)
今季もたくさんの歓喜を与えてくれた数々のゴール……。初勝利を決めた宏矢のミドル。甲府からの初勝利を挙げた小瀬でのパウロ、そして悠斗のゴール。そして、キョーゴのそれぞれのゴール。ひとつを選ぶのは難しい。その中で、選んだのはルーキーのプロ初ゴール。10 連敗、13 試合未勝利という泥沼からの脱出を呼び込んだゴールは、プロ生活の初日に待っていた悪夢のケガから復活したという歓喜もあいて、どうしても忘れられない一撃！彼のレプユニをできる限り掲げていた者としては、やはり一票を投じざるを得ない。来季はスタメンとして、一層の活躍を願ってやまない。大地、頼んだぞ！（ぐん、）

◆ MVP

古橋亨梧

夏にいなくなってしまった選手を MVP に選ぶのはどうかと思うが、とにかく今シーズンは亨梧を抜きには語れない。その爆発的なスピードは去年から見せてもらっていたが、今年はさらに圧倒的な決定力を身に着けたから鬼に金棒。もはや J2 レベルを軽く飛び越えてしまった。前半戦（つまり with 亨梧）は面白いように勝ち点を稼いでいたわがクラブが、後半戦（即ち without 亨梧）で地獄を味わった事実をみても、彼の存在がいかに大きかったのかわかろう。J 参入 11 年、引き抜かれてその喪失に苦しむようなレベルのエースをやっとうちも手にすることができたんだと考えれば、これもクラブとしての成長なのかも。(cruyff)
いまはいない選手だけれど、彼を MVP に推すことにニュートリノ 1 個分の躊躇もない。
岐阜の大不調は彼が在籍中から始まっていたけれど、それでも彼の移籍前は 9 勝 5 分 12 敗で得失点差マイナス 1、移籍後は 2 勝 3 分 10 敗で得失点差マイナス 17。岐阜が今季 (41 節まで) に獲得した勝ち点の 8 割近くを、彼が在籍していた 26 試合で稼いでいる。逆に言えば、いまはいない選手を MVP に推すことに躊躇しない現状だ、ということでもある。(吉田 铸造)

No.10 ライアン・デ・フリース

シーズン前半だけだったら、そりゃ #11 古橋亨梧なんでしょうし、そういう選択肢もあるんでしょうが (苦笑)。今のメンバーだと、僕は #10 ライアン・デ・フリースを推します。彼がいるといないとでは、プレーの幅が全く違う。#11 古橋が移籍し、#10 ライザも負傷で長期離脱したのが今季のチームの低迷に繋がったように思います。来季は開幕から更なる活躍を期待する意味も込めて。ちなみに次点は、41 試合でピッチを駆け回ってチームを支えた #31 宮本航汰を。(ぐん、)

No.25 ビクトル

MVP かなぁ。前半戦のまま、ずっといてくれたんならキョーゴでしかたがないところだし、ある意味『キョーゴ貯金』で生き延びた今季だから……とも思ったけど、やっぱりシーズンを通してガンバってくれた選手を選びたい。ということで、やっぱり彼でしょ！今季もフル出場。いったい、何点防いでくれたか。彼以外でも止められるシュートはたくさんあった。でも、彼じゃなきゃ止められないシュートも雨あられほどあった。彼がいなきゃ、今頃降格してたよ。いや、ホントに。来季を含めて「複数年契約」の締結をフロントには強くお願いしておきたい。
あと、「陰の MVP」というか、もしかしたら実質、今季の MVP かもしれないんじゃないか？という存在が。それはギッ

フィー。最初見た時は心配にもなったが、改めてマスコットという存在の持つ破壊力を思い知らされ、発揮された威力には度肝を抜かれた。デル・ピエロ氏を呼び込んだのは、紛れもなくギッフィーの功績。フツは絡みにいかないだろ？おかしいよ？(褒め言葉)。ダンスもイケるし、FK も止める。いつのまにか、身長も伸縮も自在になった模様。これからも FC 岐阜のシンボルとして成長していくことを期待しています！

それと、ここで挙げるのは違うのかもしれないが、こちらも陰の MVP の次点に挙げたいのが「GGG」だ。どちらかというど野暮ったい、あか抜けないイメージ (個人の感想です。あくまで個人の、ですからね) のあるこのクラブに、こんな艶やかで、華やかな彼女たちがマッチするのか？いや、それ以前にどんな距離感で接したらいいのか？そんなことで悩んでしまったオッサン一人。最初は勝利のハイタッチも出来なかったが、けなげに頑張る姿を見るにつけ、徐々に愛着感が湧いてきて、いつしか、このクラブの大切なファミリーの一員として受け入れていた。いや、上から目線とかそんなんではなく、岐阜を盛り上げてくれた大事な仲間として敬意を表したい。

最近では勝利のハイタッチにいそいそと並ぶ自分があるが、いかんせん、この歓喜を分かち合う回数が少なく過ぎて納得できない！ホーム最終戦は必ず勝つように。わかってるよね？選手達。来季はもっとたくさん勝って、オッサンのささやかな楽しみを増やしてください。オネガイシマス！（ぐん、）

今季の、そして来季の FC 岐阜へ。

●さて、まずはいつもの如くデータで振り返ってみます。過去 5 年間の勝率は、
2014 年 42 試合 13 勝 10 分 19 敗・勝点 49 (勝率 0.31)
2015 年 42 試合 12 勝 7 分 23 敗・勝点 43 (勝率 0.29)
2016 年 42 試合 12 勝 7 分 23 敗・勝点 43 (勝率 0.29)
2017 年 42 試合 11 勝 13 分 18 敗・勝点 46 (勝率 0.28)
2018 年 41 試合 11 勝 8 分 22 敗・勝点 41 (勝率 0.27)
(2018 年は第 41 節現在)

同じく過去 5 年間の、1 試合あたりのチームの得点および失点は、

2014 年	1.27 得点	1.45 失点	17 / 22 位
2015 年	0.88 得点	1.63 失点	19 / 22 位
2016 年	1.12 得点	1.70 失点	20 / 22 位
2017 年	1.35 得点	1.58 失点	18 / 22 位
2018 年	1.07 得点	1.51 失点	19 / 22 位

(2018 年は第 41 節現在)

つまり、過去 5 年の勝率は、大木監督になってからも、実はそれほど変わっていないのです。昨年に比べて、今年は得点力が落ちた分、引き分けにできていた試合を落としているという見方もできます。

大木武監督 2 年目体制は、なんとか J2 残留を決めることができました。昨年はクラブ史上最速の J2 残留確定でしたが…。既に大木監督 3 年目体制がクラブから発表されましたが、一体どうなるのでしょうか。

ひとつ、はっきりしていることがあります。『大木サッカーは、J2 では相性が非常に悪い』。J2 のサッカーも少しずつ変化していると感じますが、それでもハイプレス・ショートカウンターという“現実主義”が優位を持つ J2 という世界で、ポゼッション・スモールスペースという大木監督の“理想主義”は、ビルドアップの途中で簡単にカウンターの餌食になる。僕らは、幾度となくその場面を目にしたと思います。これが J1 クラスの選手だと、そのハイプレスを個人技でかわして空いたスペースを逆に利用するんですが…。そして、今の岐阜が、そういったレベルの選手を獲得できるかと言えば、こ

れも残念ながら非常に疑問です。とりあえずJ1ライセンスはあるけれど、まだまだ予算も不足しており、練習環境も未整備な状況では、そういった選手たちは来てくれない。そして、たとえ若く有能な選手が来てくれたとしても、今季の夏の移籍市場がそうであったように、D・A・Z・Nマネーを持ったJ1あるいは上位クラブが選手を買っていく。来年はさらにその傾向が強まるでしょう。それに備えるためには、僕たち地域クラブは、色々な工夫が必要になるでしょう。特に、ユースの底上げを急がなくてはならないかもしれません。

もう一つ、『サッカーは、パスの本数やボール支配率で勝敗を決めるスポーツではない』。ボールを回していくサッカーは楽しいですし、ポゼッションそのものを否定するつもりは僕にも無いのですが、どうも選択肢の第1順位が『サイドでショートパスを繋ぐこと』になってしまっていて、ロングボールやドリブルでの中央突破、ショートカウンターやミドルシュートなどが選択肢から漏れてしまっているような不安をときどき感じます。あるいは、『大木サッカーは、“大木サッカーをしない選手”を必要とする』と言っても良いかもしれません。分かりやすいのは甲府時代のバレー選手。ああいった、ショートパス主体のリズムを変える選手が。これは僕の経験でもありますが、『読みやすい攻撃は守りやすい』ということも、言わなくてはならないでしょう。

泥沼の13試合未勝利から抜け出すために、大木監督が選択したのは、少なくとも僕は“現実主義”への(若干の)方向転換だったと思っています。縦へのロングボールを用いる、いわば“普段着のサッカー”。それでJ2残留を掴み取ったのだと思っています。その中に、“お洒落なサッカー”を混ぜていく、その“理想と現実”を、どう折り合いをつけていくのか。それが大木監督3年目体制を見る際の、僕の視座になるでしょうか。

……等々と、色々と来季への課題や苦言(?)を僕なりに挙げてみましたが、まあ何だかんだ言っても、「このクラブとチームとJリーグを楽しむ」ってことは、来季も変わらないんでしょうねえ(笑)。なお、僕の座右の銘は『楽するのと楽しむのは違う。苦労をするから楽しめるのだ』です(苦笑)。

(ささたく)

●いきなり昇格とかそんな高望みな事は言うつもりはありません。ただ、何年か10位前後を安定して2~3年続けられるようにしてもらいたい。J1昇格を考えるのはそれからで十分です。

毎年毎年残留争いに顔を出すのもういい加減懲り懲りです。そのためにはやはり効果的な補強を！補強費の増額という報道も目にしたが、効果的な補強ができなければ意味をなさない。今季、どの部分が弱かったのか？そこをしっかりと精査検討した上で可能な範囲の補強をしていただきたい。(匿名希望)

●折り返しを迎える頃までは「おいおい、もしかすると、もしかするのかわか？」なんて、かつて経験したことのない興奮に震えたこともあったが、結局は見慣れた位置に落ち着く。安定の残留争いという、半ば矛盾した状況を今季も演じてしまった。監督を替え、選手を替え、初めて目に見える、わかりやすい戦術で戦いながらのこの結果。来季からは、こんなの抜きたいよね。どうなるのかな？どうするのかな？と思っていたら、ウチには珍しい時期に続投宣言。もちろん、残留が確定した時点で来季の指揮官が決まっているのはイイことだ。新たな選手の補強にも少なからずプラスには働くだらう。ただ、これでいいのかわか。確かに、大木監督は筋が通った人だ。FM岐阜の『Road to Dream』での宏矢の話などを聞くと人望は厚く、信頼されていることがわかる。明確な戦術と確固たる信念を持ち合わせていることが伺える。昨季の開幕戦で目の当たりにした、今までのウチとは次元の違うサッカー。わかりやすく、目にも鮮やかなそのサッカーに心を奪われたのはボクだけではないだろう。しかし、この2年の結果はどうだったのか。今季の終盤は『支配率は圧倒的な大木サッカー』で

はなかった。そういう路線で行くのか。確かに、監督は「ポゼッション・サッカーをしているつもりはない。」というような発言もしていたように思う。ただ、そういう路線なら別に大木さんでなくとも……という気持ちもどこかにあるのは否めない。

しかし、続投が決まったのだから、やることは決まっている。ボクは応援をする。フロントはこの2年以上の戦力を補強してください。庄司、シン、もっちゃんがいた昨季も、キョーゴが途中までいた今季も残留争いをしました。この4人と同等の戦力を獲得してもギリギリでしょう。J2はそんなに甘くない。すでにJ1経験クラブが半分を越えました。来季も増えるでしょう。そんな中で、ウチは讃岐と並んで環境面ではリーグ・ワーストだという話も耳にしました。そして、讃岐は来季いないかもしれない。最下層からのスタートです。しかも、来季からは外国人枠が緩くなると聞いています。今季のウチは外国人枠を活用できたかどうか。即戦力が必要です。あとは、外国人選手獲得によって、余剰戦力となった、あるいは実戦経験を積ませたい若手選手のレンタル契約。フロントには手腕を振るっていただかないと困ります。J3は魔境。一度落ちたら抜け出すのは困難を極めるでしょう。少なくとも、天皇杯でターンオーバーできる戦力、選手層を整えてもらえないでしょうか？天皇杯以降、順位が下がっていくのは見飽きました。注文ばかり多くてごめんなさい。来季こそは、最終節までイイ方でのスリルと興奮を味わいたいです。(ぐん)

●この福岡戦に勝っても昨年の勝ち点(46)に届かないし、勝ち数はようやく昨年を超えてギリギリで残留した2016シーズンに並ぶという今季のFC岐阜。しかし、2年間指揮した大木監督の留任が早々と発表になった。「早々と」の部分は大いに評価できる。クラブは先行して補強などのチーム編成作業に入ることが出来るだろう。でも、それ以外の点は「よくわからない」という感想しか浮かばない。

新聞報道では、監督留任の理由に「ロングボールを使った新たな戦術で上位から勝ち点を奪った」「若手の成長を促した」とある。しかし、『岐大通』今号1ページ目の順位表を見ていただくとわかる通り、上位勢からは勝ち点を奪ったかもしれないけど、残留を争った下位勢には後期は全敗しているのだ。「若手の成長を促した」の部分も、よくわからない。一番の成長株だった古橋はもう岐阜にいない。促してはいるだろうけれど、実際に「成長した」といえるだけの選手がどれだけいるのかも、よくわからない。本当に、この報道にある通りのことが「監督留任の理由」だとしたら、かなりの『期待値含み』の判断だと言えよう。

とはいえ、理由はともかく留任は決まった。これはもう大木体制・3年目に期待するのは当然……と書いて、何に期待すればいいのかわか、実はこれもよくわからない。

今度こそ、大木サッカーを具現化出来る戦力を揃えて、完成したら面白くなる『はずの』絢爛たるパスサッカーの実現に期待すればいいのかわか？触るだけで指を切るくらいにリアリストたちが刃を研ぐJ2という世界で、それで渡り合っているだけのサッカーを作れるのかわか？FC岐阜くらいの小さなクラブで、それだけの戦力を揃えられるのかわか？原石を磨いて光らせることにかけては一流の腕を持つ大木監督のもとに、関東や関西の有力Jクラブを差し置いて古橋級の原石を結集させることが出来るのかわか？それとも、絢爛たるロマン・サッカーの伝道師・大木監督がリアリストに変貌するのに期待するのかわか？まあ、これならば最初からリアリストな監督にすればいいだけのことだが……。

とにかく、よくわからない。よくわからないけれど、来季もよろしく願います……今季みたいなぐちゃぐちゃなシーズンにならないように、願います……としか、ぼくは言えない。やっぱり、よくわからない。(吉田 Casting)

